



ともに生きる 響きあう心で つながる未来へ

第 35 回

豊橋男女共生フェスティバル

報告書

令和 4 年 1 月 16 日 (日)

第 35 回豊橋男女共生フェスティバルを終えて

第 35 回豊橋男女共生フェスティバル実行委員会 実行委員長 大谷 靖子

社会がコロナ禍の影響を受けだして、3 年目となります。昨年のフェスティバルはその影響を受け、中止になりました。今年度も開催できるのか、開催するならどんなフェスティバルにしていけばいいのか。その話し合いから始めました。

数度の話し合いの末、対面での関わり合いに不安がある方も多いことから、オンライン講演会を主としたものとし、次年度に繋ぐ 35 回目をつくる、とまとまりました。

コロナ禍が男女共同参画に及ぼした影響を考えあうため、今年度の講演会講師を石井クンツ昌子さんをお願いしました。石井さんは現在、お茶の水女子大学の理事・副学長。積み重ねたデータからのお話は分かりやすく、納得することが多くありました。「男女共同参画は、職場・家庭・地域のすべての場所から理解を深めていくことが重要」というお話は、私たちが進めていくことの必要性を話されたのではないのでしょうか。

講演会をみのフェスティバルになりましたが、オープニングの『箏曲蘭友会』の皆様、『ハッピーグループ』の皆様の演奏は、開会に華やかさを彩ってくださいました。人とつながりあうことの実感が作りづらい今ですが、やっぱり会って、交わして、人とつながりあうフェスティバルを来年こそは考えていきたいと実感した今年度です。

そういう状況の中で、共に作りあった 16 団体の皆様には深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



オープニング演奏

「箏曲蘭友会」、「ハッピーグループ」の皆さんによるオープニング演奏で開幕し、会場が和やかな雰囲気になりました。

浅井由崇市長からは、男女共同参画社会の実現に向けて一層まい進していくと挨拶がありました。



オンライン講演会

コロナ時代の男女共同参画 ～みんなが幸せになるために～

講師

石井クンツ昌子さん

(お茶の水女子大学 理事 副学長、お茶の水女子大学 名誉教授)

カリフォルニア大学リバーサイド校で20年間教鞭を執り、その後、お茶の水女子大学教授、ジェンダー研究所所長などを歴任。

1980年代から日米で父親の家事・育児参画や女性の就労について研究を重ね、2012年全米家族関係学会「Jan Trost 賞」受賞。



コロナ禍で生まれた「新名もなき家事」やジェンダード・イノベーションなど、最新の研究も交えながら、家庭内をはじめとした男女共同参画の大切さを語っていただきました。

おうち時間が増えた今こそ、各家庭で考えたいテーマです。温かみのある石井さんの講演を聴いて、「自分のことからやってみよう」と一歩踏み出す勇気をいただきました。

活動報告展示

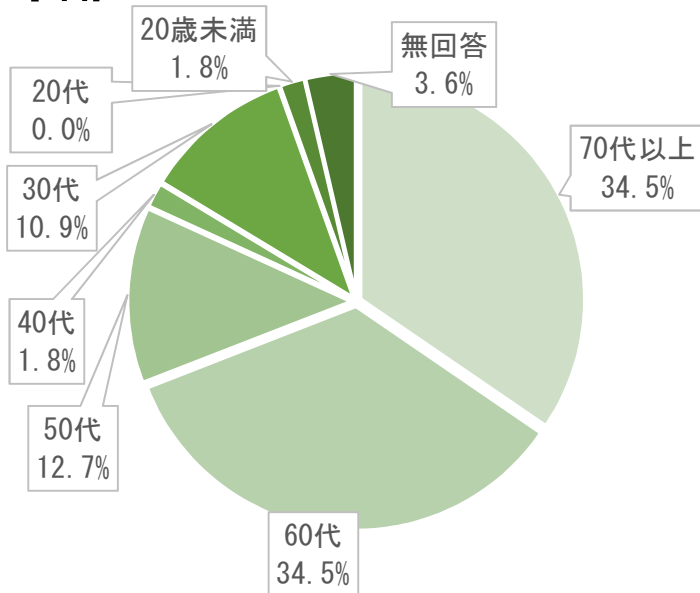
実行委員会所属団体の日頃の活動について、手作りパネルやチラシで紹介しました。



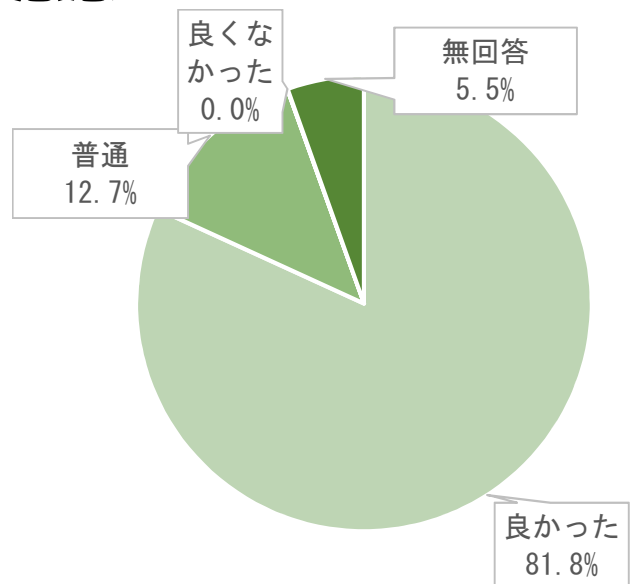
講演会 アンケート結果

(回答数 : 55)

年齢



感想



講演会に参加された方の声

- ・ みんなで協力して家事、子育てすることが大切だと改めて思いました。
- ・ 教育が重要、ということが共有できてよかったと思います。社会全体で関わり、変わっていかないといけないと感じることができました。
- ・ 新しい知見、研究結果もふんだんに入っていて、勉強になりました。
- ・ 「父親の育児・家事がもたらすもの」は心にとめておき、他の人にも伝えたいと思います。



第 35 回豊橋男女共生フェスティバル実行委員会

<実行委員会所属団体>

わっぱの会、とよはし未来を拓く会、豊橋おやこ劇場協議会、東三にじの会、新日本婦人の会豊橋支部、とよはし女性フォーラム、ハッピーグループ、豊橋商工会議所女性会、マザーズサポートきらら、豊橋マリンバの会、ひまわり会、（公社）豊橋市シルバー人材センター綺羅の会、SIMONEKO、箏曲蘭友会、農村輝きネット・東三河、（特非）クオーレ

全 16 団体

発行：豊橋男女共生フェスティバル実行委員会・豊橋市
〒440-8501 豊橋市今橋町 1 市民協創部市民協働推進課
電話 0532-51-2188／FAX 0532-56-5128

（令和 4 年 2 月発行）